

【活動計画】

1 サンゴの種苗生産

・ロープや基盤による養殖を中心に、有性生殖による種苗生産の実施

2 サンゴの移植

・種苗生産により成長したサンゴを協定面積内に移植する。

3 食害生物の除去

・藻類や棘皮動物などサンゴ及び移植サンゴに害をなす生物を移植実施区域及び周辺のサンゴ礁地を含む地域から除去する。

4 モニタリング

・現存するサンゴ群落及び周辺の着生可能な範囲を目視と航空写真、面積算出ソフトを用いて算定する。

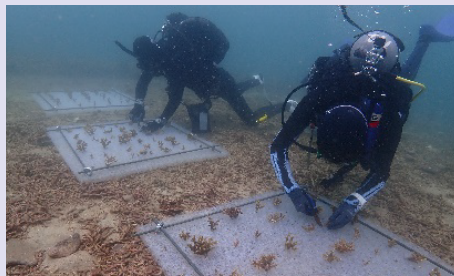
5 理解・増進を図る取組

・地元の小・中学生等を対象に、サンゴの生態や保全活動に関する講義やフィールド観察を実施する。

●令和6年度の取組状況

【実績】

1 サンゴの種苗生産



養殖基盤へのサンゴ片の取り付け

2 サンゴの移植



波浪により拡散したサンゴの再移植作業

3 食害生物の除去



ガンガゼの除去

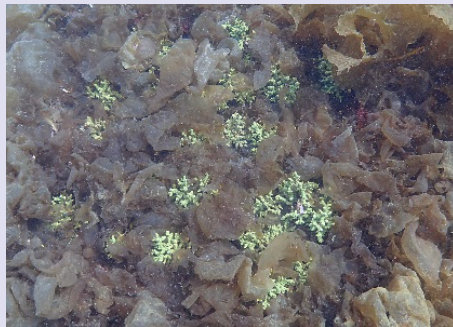
4 モニタリング



群落面積の算出(計測作業)



海藻(ナガミル)に覆われるサンゴ群落・夏季7月



海藻(フカリ)に覆われるサンゴ養殖基盤・冬季2月

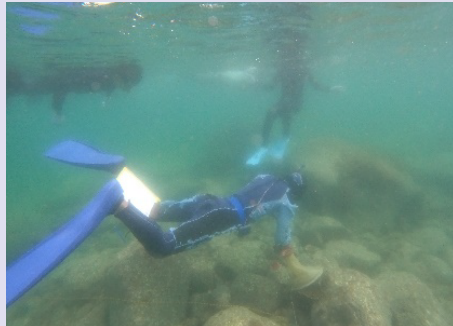
4 理解・増進を図る取組



地元長井崎小中一貫学校での総合学習



陸上水槽にてサンゴの産卵観察を実施
(奈良学園スーパーサイエンススクール)



サンゴの産卵確認のためのバンドルコレクター回収を見学(SSH)

【これからの課題】

人員不足が深刻な課題となっており、地域が中心となって保全していく仕組みづくりを模索していくべき時期にあると考えます。そのために、さまざまな形でサンゴの重要性を

知ってもらおう努力を続けていきます。同時に、今後も可能な限り定期的なモニタリング活動と現存するサンゴに負担の少ない種苗生産及び移植活動を実施していきます。